4．水族館記録　2007年

1.　研究・教育

1月11日　熊野 岳 助教と大学院生の3人（大阪大学大学院理学研究科）が、研究用マボヤ約400個体を搬入し、大型実験水槽（第3水槽棟作業室）を8.0-8.5℃に冷却して畜養を始めた。これらのマボヤは、東京大学海洋研究所国際海洋研究センター（岩手県大槌町）から輸送されたもので、西田宏記 教授（大阪大学大学院理学研究科）と真壁和裕 教授（徳島大学総合科学部）の研究室で、胚期における発生運命決定機構に関する研究用に供される。5月18日までに数度回収に訪れ、蓄養を終了した。

1月22日　深見裕伸 助教に、ヒユサンゴ（201号水槽）の一部を研究用に提供した。このサンゴは2005年6月8日、田辺湾小丸島の南側水深3mの岩礁から採集したもので、その後2分裂していた。

1月24日-2月12日　ハタタテギンポ3尾（1月9日、岡本昭生氏より受贈）の死亡個体標本を、中坊徹次 教授（京都大学総合博物館館長）に2回に及び提供した。

1月24日　サザエ幼貝に対する二酸化炭素の影響を調べる実験（301号水槽で、2005年7月27日から展示）を、最後の個体の死亡に伴い終了した。

2月19日　星 元紀教授（放送大学）の依頼でプラコゾア用のトラップを作製し、館内・館外7箇所に計18トラップを仕掛けた(4月17日、星教授と共に回収)。その後、新たに仕掛けたトラップを5月29日に回収し、星教授に送った。

3月14日　北野裕子 研究生に餌料用冷凍マアジ100尾を、研究用（左右性の調査）として提供した。

3月18日　京都大学理学部生物系臨海実習Ⅱ部学生(14名)の見学を指導した。

3月26日　西 栄二郎 准教授（横浜国立大学教育人間科学部）に、蓄養中のツバサゴカイ1個体（3月23日、白浜町寒サ浦で採集）を提供した。

3月29日　公開臨海実習学部生(7名)の見学を指導した。

4月 3日　深見裕伸 助教に、オオカワリギンチャクとセイタカカワリギンチャク（302号水槽）の触手の一部を研究用に提供した。

4月26日　すさみ町立見老津小学校（生徒17人、教諭7人）の見学を指導した。

5月 4日　京都大学全学共通教育ポケット・ゼミ（新入生11名）の見学を指導した。

5月 7日　次回の二酸化炭素の影響を調べる実験（白山義久教授と技術職員4名。301号水槽で展示予定）用の新装置（8月15日の記事参照）について、紀本電子工業（株）から説明があった。

5月10日　マメダコ1個体（第3水槽室予備水槽）を、ロビン・リグビー 教務補佐員に研究用として提供した。

5月20日　放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生(20名)の見学を指導した。

5月22日　田辺市立長野中学校（生徒21人、引率教諭7人）の見学を指導した。

7月 5日-9月10日　深見裕伸 助教と鈴木 豪 院生が、第3水槽棟屋上培養温室の水槽設備を利用して造礁サンゴ類の産卵調査を行った。

7月10日　田辺市立東陽中学校の「職場体験学習」で、2年生2名を指導した。

7月10日　チギレイソギンチャクとセイタカイソギンチャク（いくつかの水槽で自然繁殖。各20個体）を、並河 洋 研究官(国立科学博物館)に研究用として提供した。

7月17日　大阪市立大学理学部臨海実習生(3回生21名、教員2名)の見学を指導した。

7月20日　奈良女子大学附属小学校5年生（生徒80名、教諭6名）の見学を指導した。

7月21日　滋賀県立膳所高等学校第38回生物実習(生徒24名、教諭5名)の見学を指導した。

8月 1日- 6日　京都大学理学部臨海実習4部の岡本光平4回生が、自由研究課題でマダコ2個体の行動調査を第3水槽棟の作業室でビデオカメラを設置して行った。

8月15日　白山義久教授、加藤哲哉・興田喜久男・太田 満・山本泰司技術職員が、ムラサキウニに対する二酸化炭素の影響を調べる実験を、301号水槽で展示しながら開始した。ムラサキウニに対しては2度目で、今回は紀本電子工業（株）開発による高精度分析装置とガス調整器を導入することによって、外海水の二酸化炭素の濃度をリアルタイムで同調させることが可能になった。これに伴い、水槽上方の壁面に機器類の解説パネル（A1、2枚。紀本電子工業作製）を掲示し、水槽裏側の目隠し板を取り去って、実験観察準備室に設置した機器類を、水槽越しに見えるようにした。

8月27日　京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ部学生(12名)の見学を指導した。

9月12日　大阪大学理学部生物学臨海実習生(20名、教員2名)の見学を指導した。

9月15日　京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ部学生(9名)の見学を指導した。

9月15日　公開臨海実習学部生(7名)の見学を指導した。

9月26日　京都大学総合人間学部全学共通科目探求型化学実験（学生12名、教員3名）の見学を指導した。

10月 6日　兵庫県立姫路飾西高等学校長期宿泊体験学習Ａ班(生徒20名、教諭2名)の見学を指導した。

10月11日　田辺市立中山路小学校低学年　生活科・社会科見学体験学習（生徒21名、教諭3名）のバックヤード見学を指導した。

10月13日　兵庫県立姫路飾西高等学校長期宿泊体験学習Ｂ班（生徒20名、教諭2名)の見学を指導した。

10月20日　大阪府立豊中高等学校臨海実習(生徒12人、教諭2名)の見学を指導した。

10月28日　和歌山県立田辺高等学校生物部海洋生物実習（生徒21名、教諭4名）の見学を指導した。

12月17日　原田桂太 5回生（理学部）が、第3水槽棟作業室に水槽（100ℓ ×2）を設置して、イソクズガニのカモフラージュに関する飼育実験を開始した。

2.普及

1月 8日　冬休みイベント「解説ツアー」を終了した。教員5名と技術職員3名とで、12月23日から17日間実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10名）、延べ表側114名、裏側116名が参加した。

1月23日　わかやまイベントボード（イベント情報誌）に「水族館バックヤード体験学習」（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）の実施要綱を登録した。

1月23日　テレビ和歌山から、上記「水族館バックヤード体験学習」の実施要綱に関する電話取材があった。

2月 7日　水族館メールニュースを「まぐまぐ！」（インターネット情報誌）に登録し、創刊号を発行した。

3月 4日　読売新聞和歌山欄に「春休み解説ツアー」の実施要綱に関する記事が掲載された。

3月24日-4月8日　春休みイベント「解説ツアー」を教員5名、技術職員3名で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明

し（定員各10名）、延べ表側99名、裏側142名が参加した。

4月13日　紀伊民報(地方夕刊新聞)がコブヒトデモドキ（215号水槽）を取材した(4月27日付)。

4月18日　「大学博物館事典」（日外アソシエーツ）掲載のために、水族館の写真などの資料を提供した。その後、447-449ページに当館に関する情報が掲載された。

4月23日　当館の情報が掲載された「KANSAI１週間」（情報誌）の見本誌が送付された。

4月23日　ビーチステーション（白浜ＦＭラジオ局）から「水族館バックヤード体験学習」の実施要綱に関する電話取材があった。

4月24日　「きのくに学習メニューブック　春号平成19年度」が、きのくに県民カレッジ事務局より送付された。このメニューブックには、2008年4月～8月の「きのくに県民カレッジ」（和歌山県教育委員会）に登録した連携講座「水族館バックヤード体験学習」2回分と「水族館の磯採集体験」2回分（定員各20名）が掲載されている。

4月26日　近畿大学水産学部大学院生1名、留学生1名を、バックヤードを案内・説明した。

5月19日　「水族館バックヤード体験学習」（13:30-15:30）を行った。参加者は11名。内容は、水槽の裏側・機械室見学、餌やり体験、標本を利用した名前調べクイズなど。また同時に、テレビ和歌山がこの様子を取材した（5月21日放映）。

5月26日　「クイズラリー」を開始した。参加者は水槽を巡りながら、比較的やさしい問題（10問）を解いて行く。問題用紙（A4）と鉛筆を改札窓口に配置し、出口近くに解説付きの解答を掲示した。

5月29日　釣りビジョンが「とことんエギパラダイス」という番組用に一部の水槽を撮影した（7月18日放映）。

5月30日　三彗社から同社刊行の書籍「ザ・水族館」に、当館に関する文字情報を掲載する旨の確認電話があった。

6月16日　「水族館の磯採集体験」と「水族館バックヤード体験学習」（9:30-12:00と13:30-15:30）を行った。参加者は前者11名、後者8名。なお、「水族館の磯採集体験」はJSTの支援を受けた（7.その他の5月7日の記事参照）。

7月 2日　わかやまイベントボード（上記）に「水族館バックヤード体験学習」（3回分）と「夏休み解説ツアー」の実施要綱を登録した

7月 3日　紀伊民報がオナガウツボ（409号水槽）を取材した(7月7日付)。

7月 3日～　紀伊民報に、連載記事「水族館へ行こう！」（約800字）が本日より毎週掲載されることになった。執筆者は教員5名と技術職員3名。初回は、白山義久 所長による「世界最大の節足動物　タカアシガニ」。

7月11日　紀伊民報に「夏休み解説ツアー」の実施要綱に関する記事が掲載された。

7月16日　読売新聞から「夏休み解説ツアー」についての電話取材があった。

7月29日　白浜町国際交流会一行（12名）を案内した。

8月 6日　日本旅行（株）の依頼で、当館の外観と館内の写真を送付した。

8月 8日-13日　紀伊民報が、アカオニヒトデとアマミイセエビを取材した(8月21日付)。

8月22日　テレビ和歌山がタコクラゲとアマミイセエビを取材した(26日放送)。

9月20日　「きのくに学習メニューブック　秋号2007」が、きのくに県民カレッ

ジ事務局より送付された。このメニューブックには、2008年9月～2009年3月の「きのくに県民カレッジ」(和歌山県教育委員会)に登録した連携講座「水族館バックヤード体験学習」3回分(定員20名)が掲載されている。

9月27日　ビーチステーション（白浜ＦＭラジオ局）の生番組で、「水族館バックヤード体験学習」（県民カレッジ連携講座）に関する電話応対をした。

10月13日　「水族館バックヤード体験学習」（13:30-15:30）を行った。参加者は24名（うち3名途中棄権）。

10月31日　紀伊民報がヒョウモンダコ（406号水槽）を取材した(11月7日付)。

11月20日　冬休み解説ツアーの宣伝ポスター（A2、600部）が送られてきた（原稿を、印刷業者にインターネットを通じて発注したもので、一枚あたりの費用は紙代共27円と格安）。後日、白浜町商工会、田辺市・西牟婁郡小、中学校、白浜町内のホテルなどに配布した。

11月22日　紀伊民報がヒレコダイ(405号水槽、県内初確認)を取材した(12月5日付)。

12月 8日　「水族館バックヤード体験学習」（13:30-15:30）を行った。参加者は6名。また同時に、ビーチステーション（白浜ＦＭラジオ局）がこの様子を取材した（12日放送）。

12月18日　紀伊民報がコブヒトデモドキ（215号水槽）を取材した(12月22日付)。

12月21日　紀伊民報に「冬休み解説ツアー」の実施要綱に関する記事が掲載された。

12月24日　朝日新聞がコブヒトデモドキ（215号水槽）を取材した(12月25日付)。

12月25日　紀伊民報がアカイセエビ(303号水槽)を取材した(2008年1月8日付)。

12月25日　NHKテレビ（和歌山支局）が「冬休み解説ツアー」の様子を撮影した（夕方放映）。

3.機械・設備

3月 2日　地下重油タンクの立入検査が白浜町消防予防課により行われた。タンク室内に雨水の侵入が認められるため、改善の指摘があった。

4月10日・11日　自動火災報知設備に雷対策器の取付け工事が行われた。前年に雷による受信機回路の焼損事故が発生したため。

4月11日　第1水槽棟貯水槽から機械室側へのパイプに沿った漏水を、水中エポキシボンドをコーキングして止めた。

4月11日・12日　101号水槽の海水循環ポンプの更新工事が行われた。ポンプ出力を7.5ｋＷから5.5ｋＷに改善し、年約10万円程度の削減が見込まれる。

4月13日　ボイラー(第2水槽棟)と空冷ヒートポンプチラー(第4水槽棟)の運転を停止し、各循環系統の加温を終了した(水温上昇に伴う冬運転の停止)。

4月13日　電気室屋上入口の扉改修工事が行われた。

5月10日　電気室の非常用自家発電装置の蓄電池を更新した。

7月 9日-11日　各循環系統の重力式濾過槽(第1，2，4水槽棟地下室に15槽、計130㎥)を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。

7月18日・31日　第1水槽棟No.1サクションパイプを取水井戸から引き上げ、フート弁周辺の水漏れ箇所を補修した。

7月25日-9月27日　水冷ウォーターチリングユニット(第１水槽棟)と空冷ヒートポンプチラー(第4水槽棟)を夜間運転し、各循環系統の水温を25-28℃に維持した。

7月27日　非常用自家発電装置の制御装置の取り換えが行われた。5月13日と6月10日に、制御装置の不具合による誤作動運転があったため。

8月 2日　蛍光灯照明1基（3波長形30W2灯）を、306号水槽に展示したサカサク

ラゲ用に取り付けた。

8月21日　スポットライト1基（40W）を、301号水槽（ムラサキウニに対する二酸化炭素添加影響実験の展示）の解説パネル照明用として取り付けた。

8月22日-24日　224号水槽（3.9㎥）のガラス下方から観覧通路に漏水するため、ガラス周辺のシリコンシーラントを打ち直した。漏水の原因は、展示中のイセエビがシリコン部分を引き裂いた傷によるものと考えられた。

10月11日　水族館出口の自動扉の取替え工事が行われた。

10月30日　地下重油タンクの定期検査が行われた。

11月14日　消防設備の定期検査が行われた。

11月19日-27日　空冷ヒートポンプチラーと空冷ウォーターチリングユニット各1台（第4水槽棟、1993年設置）の更新工事が行われた（竣工検査は12月11日）。

11月26日　空冷ウォーターチリングユニットの運転を行い、第4水槽棟第1循環系統の周年冷却（16℃に維持）を再開した。

11月28日　空冷ヒートポンプチラーの運転を行い、第3、4水槽棟の第2～4循環系統を19～21℃に維持した。ボイラーも運転し、第2水槽棟の各循環系統と101号水槽を19～21℃に維持した。

12月14日　高圧受変電設備および低圧電気設備の定期点検を行った。点検中、停電（7:30-10:30）とし、自家発電装置を運転して主要箇所に送電した。

12月25日・26日　第1水槽棟観覧通路のエアコンの更新工事が行われた。

4. 収集・飼育・展示

1月 4日　サカサクラゲ9個体（径4-8cm）を予備水槽から選抜し、202号水槽にクラゲ用吊り水槽をセットして展示した。前年10月16日に幼クラゲ（径2-10mm）とポリプの状態で入館したもの（瀬戸臨海実験所年報　第20巻、p.16参照）。1月16日には光量不足のせいか、数個体の傘に変形異常が見られたため、1月19日に展示を打ち切った。

1月16日　ナヌカザメ雌（407号水槽、全長約1m）が1卵を産んだ。一昨年7月20日にこの水槽で始めて産卵して以来、39個目になる。卵は、ヤギの骨軸に巻きつけ、407号水槽に吊るして展示中。この水槽ではオス1尾（全長約90cm）が同居している。その後、年末までに1～2個の卵を20回、計30個産んだ。なお、この水槽では、水温を年中15-16℃に維持している。

1月16日-2月12日　クロダイ（404号水槽の11尾と予備水槽の11尾）にアノプロジスクス症が認められたため、魚を水槽からすくいだし30分間の淡水浴を行った。その後、専用の予備水槽に収容してベネデニア駆除用の薬剤（ハダクリーン）を3日間投与し、経過を見ることにした。1月29日に再度淡水浴をしたところ、依然、アノプロジスクスが多数認められたため、水温を22度に維持しながら1/2海水でしばらく飼育することにした。2月5日に検査したところ、まだ付着していることから、今度は1/4海水にすることにした。2月10日の検査で付着が認められなかったことから1/2海水にもどし、2月12日には通常の循環系統に組み入れた。

1月24日　ハタタテギンポ（1月9日、岡本昭生さん（白浜町袋、漁業）より受贈。全長4cm）を、303号水槽内の吊り水槽に展示した（2月4日死亡）。

2月13日-19日　白点病が403号水槽のハコフグとシマウミスズメに認められたため、これらをすくい出して隔離し、硫酸銅を2度投与した。2月28日-3月7日、7月8日-16日にも同様の治療を行った。

2月20日　チゴガニ28個体、ヤマトオサガニ6個体、オキシジミ1個体、ホソウミ

ニナ60個体、トビハゼ10個体などを内之浦干潟（田辺市）から採集し，401号水槽（「干潟」）に展示した。

2月21日　ライト付きルーペ（3倍。単Ⅲ電池2個入り）を、207号水槽脇に取り付けた。ヒオウギの眼点や二枚貝類の外套膜、入・出水管などの観察に供するため。これでライト付きルーペは、204号、216号水槽に次いで3個目の設置となる。

2月27日　アカクラゲ2個体を白浜町袋湾から採集し、202号水槽内にクラゲ用吊り水槽を設置して展示した（3月7日まで）。

2月27日　本年初入館のタカアシガニ（雌、1個体）をよし善商店（鮮魚商）から購入した。

3月 8日　アマミイセエビ1個体（体長18cm）を、向井一二さん（みなべ町堺、漁業）から購入した。エビ刺網にかかる。

3月19日-21日　ツノクラゲ5個体を、202号水槽にクラゲ用吊り水槽を設置して展示したが、酸欠状態になり死亡した。

3月21日　ヒョウモンダコ（208号水槽、吊り水槽）が死亡した。前年8月25日に番所崎で、奈良女子大学附属中学の実習生が採捕したもの。

3月23日　アカオニガゼ1個体（径12cm）を、白浜町江津良港内水深1.5mの砂地で採集した。

3月23日-31日　ツノクラゲ1個体とカブトクラゲ6個体を田辺湾から採集し、202号水槽にクラゲ用吊り水槽を設置して展示した。今回、酸欠状態は回避できたが、長生きさせられなかった。

3月28日　オオグソクムシ2個体を、西本篤史 4回生から提供を受け、302号水槽に展示した（5月19日に2個体目が死亡）。これらは熊野灘で底引網にかかったもの。

4月 4日　ナヌカザメ1尾が、407号水槽に吊り下げていた卵から孵化した。ただし、産卵日は特定できなかった。

4月 5日　オニハタタテダイ（410-2,3号水槽）が死亡した。全長13.8cm、体長10.8cm。2005年10月31日に岡本昭生さんから購入したもの（当時の全長約7cm）。

4月 7日　解説ファイルの「淡水エビ類の生態学と森里海連環学」（B5、8ページ）を、306号水槽のラベルケースの横に取り付けた。

4月10日　201号水槽のイシサンゴ類、サンゴイソギンチャク、キッカイソギンチャク、シマッカイソギンチャクが触手を縮め、足盤がはがれるなど、急に不調になったため、水槽から展示動物をすべて取り出して淡水張りとした（4月13日まで）。原因は不明。

4月10日-5月11日　読書コーナーの机4脚に、図鑑や海洋動物の読み物9種各一冊ずつをチェーンで取り付けた。

4月11日　瀬戸臨海実験所を紹介するパネル5枚（A1）を、第3水槽室ウォールケースの向い壁に掲示した。これらのパネルは、前年12月23日に京大百周年時計台記念館で行われた「第3回時計台対話集会」（フィールド研主催）のパネル展に出展されたもの。パネルのタイトルは、「瀬戸臨海実験所」、「「京都大学・瀬戸臨海実験所」の臨海実習について」、「NaGISAプロジェクト」、「瀬戸臨海実験所の図書室」、「「京都大学白浜水族館」について」で、所内の各教員で分担・作製した。これらのパネルの掲示に伴い、写真パネル「さまざまなクラゲ」と、ベニクラゲの研究と生活史を紹介するパネルを撤去した

4月18日・19日　原田英司 元所長の執筆による「海洋動物の多様性」ファイル（B5、8ページ）を読書コーナーの机に取り付けた。これに伴い、第2水槽室壁面に掲示していた同一テーマ・内容のパネルを撤去した。

4月21日・22日　ナンヨウツバメウオなど408号水槽と、ハタタテダイなど410-2、3号水槽の魚類にベネデニア症が認められたため、ハダクリーンを混ぜた餌料を投与した。

4月28日　ナヌカザメ2尾が孵化した（302号水槽）。全長18.5cm（雌）、17.5cm（雄）。ただし、それらの産卵日は特定できなかった。

5月 7日　水族館の歴史写真パネル（A1）2枚を作製し、第3水槽室ウォールケース向かいの壁面に掲示した。

5月14日　長期飼育のアンボイナ(殻長107.7mm。303号水槽)が死亡した。2004年4月26日、湯川勝二さん(みなべ町堺、イセエビ刺網漁)から購入したもの。

5月30日　ブリ16尾（全長約17cm。岡本昭生さんから購入）を、大型実験水槽（第3水槽棟裏側）に収容した。その後、12月25日に101号水槽に吊るした「幼魚育成いけす」に移した。

6月 1日　マアジの大型個体（226号水槽）が死亡した。計測したところ、全長34cm、湿重460gあった。

6月22日　オナガウツボ1尾（全長約2m、湿重3.6kg）を、409号水槽（「ウナギ目」）に這い出し防止柵を取り付けて収容した（9月5日に死亡）。6月20日に久保勝哉さん（田辺市江川、漁業）より購入したもの。

6月22日-24日　イトタマガシラなど405号水槽の魚類にベネデニア症が認められたため、ハダクリーンを混ぜた餌料を投与した。

6月26日　ガンガゼ8個体とアオスジガンガゼ2個体（いずれも殻径2～3cm）を、201号水槽（おもにイシサンゴ類を展示）に繁茂した糸状藻類を駆除するために収容した。

7月 1日　228号水槽用に、改良したラベルケースを取り付けた。従来のケースは1992年以前に使用していた縦15cmの解説ラベルに対応していたもので、それを現在使用している縦10cmのラベルを二重に並べるケースに作り変えた。

7月 3日-5日　第4水槽室の魚類（405、408、411-2、412号水槽）にベネデニア症が認められたため、ハダクリーンを混ぜた餌料を投与した。

7月 4日　ヒメイカを予備水槽で46日間飼育した。5月18日、田辺湾奥の鳥ノ巣で3個体採集したもの。餌はヨコエビ類やミゾレヌマエビを与えた。

7月12日　白点病予防のために、第4水槽棟第2循環系統（132.2m³）に硫酸銅280gを投薬した。これに伴い薬害を回避するため、ドチザメやアカエイを展示している406号水槽を3日間開放式とした。

7月18日　306号水槽（長さ1.5m、奥行き1mの総ガラス製）を撤去した。1993年から、この中に小水槽を入れ、淡水を循環させて「循環式給排水モデル」の展示を行っていた。

7月19日　イトマキヒトデ1個体（幅長3.5cm）を白浜町阪田の岩礁で採捕し、216号水槽に展示した。田辺湾内におけるイトマキヒトデの採集・入館は1996年8月29日以降、前年7月11日に続き2個体目。さらに9月8日にも1個体（幅長3cm）を阪田で採捕した。

7月22日　306号水槽として、長さ1.8m・奥行き0.5mの前面ガラス・周囲マクロボード製の水槽を設置し、水深25cmの半水位とした。この水槽の中にさ

らに仕切りを設け、小形の動物をトピック的に展示することにした。8月2日からは、サカサクラゲと南方系の小形ヤドカリ4種の展示を始めた。

7月25日-8月1日　カゴカキダイ幼魚24尾(全長5.5-8.5cm)を、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽室の20個の水槽へ分配収容した。それまで一年間、駆除者として働いたカゴカキダイ32尾(全長12-15cm)は水槽から取り出し、予備水槽へ移した。また、カワハギ幼魚3尾（全長4.5cm）を、底砂で自然繁殖するニホンウミケムシの駆除者として3つの水槽へ収容した。

8月 8日　タコクラゲ30個体（傘径1-2cm）を袋湾より収集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽へ展示した。その後、田辺湾から8月18日に1個体、袋湾から9月3日に5個体、9月18日に9個体、10月10日に2個体、10月22日に2個体、11月8日に2個体（傘径12cm）採集し、追加展示した。

8月 8日　オニカサゴ（303号水槽）にベネデニア症が認められたため、7尾を3分間、淡水浴治療した。

8月22日-24日　シラコダイなど410号水槽の魚類にベネデニア症が認められたため、ハダクリーンを混ぜた餌料を投与した。

8月23日　開放式給水の水温が30℃に達した。29日には、開放式の402号水槽でメバル5尾が高水温の影響で相次いで死亡した（当日の水温29℃）。

9月 5日　ソウシハギ1尾（408号水槽）の体表に外部寄生虫を認めたので、取り上げてみたらチョウが寄生していた。淡水浴を3分間してもチョウが離れなかったため、ピンセットで25個体を除去した。

9月12日　ヘソアキクボガイを第2水槽室の17個の水槽に5個体ずつ、ガラスや壁面に付着する藻類の掃除屋として収容した。

9月13日　オニカサゴ（303号水槽）にベネデニア症が再発したため、7尾を3分間、淡水浴の治療を行った。

10月 1日　長期飼育のロウニンアジ1尾（雌、101号水槽）が死亡した。全長92.3cm、体長80.3cm、湿重15.6kg。1993年ごろに白浜町内の川口で、釣りにより捕獲した幼魚（全長約15cm）から生育したもの。

10月 7日　小学生のアンケートに答えるために、一日当りの餌料の重量を計算した。餌料の種類はペレット、オキアミ、アミ、冷凍アジ、塩ワカメなどで、合計すると一日平均約12kgだった。

10月22日-25日　403号水槽(「岩礁 黒潮の豊かな生物」)で展示動物の入れ替え作業(おもに0歳魚に更新)を行い、同時に底砂の洗浄などの大掃除を行った。さらに、ガラス周辺からの漏水原因と思われるシリコンコーキング部分を補修した（漏水は止らなかった）。

10月23日　ユビナガホンヤドカリ24個体・チゴガニ13個体・トビハゼ12尾・ヤマトオサガニ21個体を、田辺市内之浦干潟から採集し、401号水槽（「干潟」）に追加収容した。

10月23日　ホンソメワケベラ1尾、キンチャクダイ3尾、クマノミ1尾、サンゴイソギンチャク1個体を、広くて展示種数の多い403号水槽から、狭くてよく見える303号水槽へ一時的に移した。田辺市立田辺第二小学校2年生90名の見学に供するため（国語の教科書にホンソメワケベラとクマノミが登場することから、学校からの要望に応えて）。

10月24日　畠島北側で、おもにイシサンゴ類の潜水採集を行った。

10月30日　円月島周辺で、おもにイシサンゴ類の潜水採集を行った。

11月 1日　マツダイ幼魚1尾（全長11cm）とナンヨウツバメウオ幼魚1尾(全長7

cm)を予備水槽から303号水槽の1区画に移し、「枯葉擬態」展示を始めた。

11月 3日　ギンガメアジ9尾、カスミアジ1尾（101号水槽内に吊るしている「幼魚育成いけす」の北側区画）が、大きな魚に捕食されない全長40cm以上のサイズに育ったので、いけすから解放した。

11月 6日-14日　404～406、409～411号水槽（魚類のみを展示している6個の水槽）を、底砂洗浄など大掃除を行った。また、いくつかの種では予備水槽の魚と交換した。

11月 6日-8日　ヒメコトヒキなど404号水槽とナンヨウツバメウオなど408号水槽の魚類にベネデニア症が認められたため、ハダクリーンを混ぜた餌料を投与した。

11月 8日　キンメヒメダイ（101号水槽の「幼魚育成いけす」）が死亡した。全長31.4cm、体長26.6cm、（側線有孔鱗数65）。2003年5月23日、岡本昭生さんから購入したもので、入館時の全長は約16cm。

11月 9日　カワハギ3尾（全長13-15cm）を、水槽の底砂で自然繁殖したニホンウミケムシを駆除するために215～217号水槽へ1尾ずつ収容した。

11月15日　アオブダイ1尾（全長48cm）を、正木正勝さん（白浜町網不知、漁業）から購入した。田辺湾最奥部の旧巡航船発着桟橋付近に仕掛けたカニ刺網にかかったもの。

11月19日-27日　第1・2・4水槽棟の各循環系統濾過槽15槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。

11月24日　テンジクアジ（予備水槽）が白点病により死亡した。全長29.5cm、体長20.5cm、湿重345ｇ。9月3日に岡本昭生さんから購入したもの。

11月27日　アカイセエビ1個体（体長23cm、初入館）とホオアカクチビ1尾（全長11cm）を、岡本昭生さんから購入した。

11月29日　マンジュウヒトデ1個体（幅長7.1cm）を、湯川勝二さんから購入した。白浜町富田沖の水深25mでエビ刺網にかかったもの。

11月30日-12月8日　白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅を3度投与した。

12月 4日　オニイソメ（204号水槽内のポケット水槽）が不調となり、4断片に自切した。

12月17日　コブヒトデモドキの大型個体(幅長19.4cm)を、岩城弘司さん(網不知、漁業)より購入した。白浜町阪田沖の水深2mの砂地で採捕したもの。

12月25日　カノコイセエビ、アカイセエビ、アマミイセエビ各一個体を、303号水槽に仕切りをして展示した。

12月25日　ナヌカザメ幼魚4尾（302号水槽）の体表に細かな寄生虫が多数認められたため、淡水浴を3分間行ったがオス1尾（全長25.4cm、湿重60ｇ）が死亡した。

5.受贈

1月9日－11月29日　岡本昭生さんより11回に及んで、タコクラゲ、クモハゼ、イソギンポ、マアジなど53種434個体（袋漁港内と周辺沿岸でおもに釣獲）。

2月13日　真鍋 鬘さん（白浜町）からカミクラゲ1個体（古賀浦湾）。202号水槽にクラゲ用吊り水槽を設置して展示したが、2月17日に死亡。

3月15日　矢倉哲男さん（みなべ町、漁業）より、ウツボ1尾(全長70cm、延縄)。

3月21日　新稲一仁さん（白浜町）よりオニヒトデ1個体（幅長12cm、鴨居漁港内水深1mの転石帯）。

3月31日　田名瀬英朋さん（白浜町）より、モクズショイ2個体、ソメンヤドカリ1個体（みなべ町堺漁港のイセエビ刺網干し場）。

4月 6日　東 康彦さん（みなべ町、漁業）より、キハッソク1尾（全長約20cm、イセエビ刺網）。

5月14日　中本 清さん（田辺市）よりオオサルパ1個体（全長14.2cm、湿重98g、瀬戸ケ瀬）。翌日に死亡し標本にした。

5月17日　増本明輝さん（白浜町）よりソデカラッパ1個体（甲幅5.8cm、田辺湾南部でカニカゴ）。

5月20日　田名瀬英朋さん（白浜町）より、ミヤコウミウシ1個体（8cm、古賀浦の潮間帯）。

6月 8日　真鍋 饗さんからハナオコゼ1尾（全長3.5cm、田辺湾南部）。

6月11日　新稲一仁さん（白浜町）より、タカクラタツ1尾（高さ約17cm、6月8日に鴨居港内でプランクトンネット）。

7月 2日　中村和彦さん（由良町）よりアミメノコギリガザミ2個体（雄：甲幅13cm、雌：甲幅20cm、由良湾（水深3m））。

7月17日　鈴木博之さん（白浜町）よりオキアジ1尾（全長6.5cm）、タナバタウオ1尾（5.5cm）、サザナミハギ1尾（4cm）、クラカケモンガラ1尾(3.5cm、白浜町権現崎）。

8月 7日　梅畑善吉さん（白浜町、鮮魚商）よりハルシャガイ1個体(殻幅4cm)。

8月13日-11月11日　荒賀忠一さん(白浜町)より11回に及んで、ヘダイ・オキフエダイ・クサフグ・ギンガメアジなどの幼魚を中心に19種84尾（安久川口・富田川口・日置川口・田辺湾奥で釣獲）。

9月 2日　真鍋 饗さんよりソウシハギ1尾（全長10cm、綱不知湾）。

9月14日　正木政勝さん（白浜町）よりオキハギ1尾（全長約35cm、綱不知湾でカニカゴ）。

11月27日　新田庄司さん（南部町）よりムラサメモンガラ1尾（全長7.5cm、9月上旬に串本町大島樫野港）。

12月23日　真鍋克次さん（白浜町、漁業）よりゴシキエビ1尾（体長23cm、田辺湾内でイセエビ刺網）。

6.生物観察メモ(水槽・野外)

1月13日　クロメ8株（402号水槽で展示中）の生長が認められた。新しく伸長した部分には付着生物がほとんど見られない。

1月19日　スナイソギンチャク1個体（202号水槽。2006年12月18日、白浜町江津良で採集）が、周囲に自然繁殖したセイタカイソギンチャクの1種によって攻撃されるせいか、萎縮している状態が継続したので、砂を入れた植木鉢に隔離してやると触手を伸ばし始めた。

3月 4日　220号水槽で展示中のアカオニナマコにナマコマルガザミ1個体が付着していた。

3月15日－23日　トゲシャコ1個体（304号水槽。2007年11月8日より隔離飼育）が、抱卵した。

3月29日　エビスガイ1個体を、205号水槽のポケット水槽に自然繁殖した小形イソギンチャクを駆除するかどうかを調べるために収容したところ、5月9日までにほぼ食べつくした（水族館ウェブページの「トピックス」に5月10日掲載）。その後、6月29日に228-1号水槽（おもにカイメン類を展示）へ、次いで7月2日に214号水槽（ウミシダ類を展示）に移して効果を

上げた。

4月12日　チゴガニ25個体のウェイビングが認められた（401号水槽のチゴガニ専用区画。前年に115個体収容（雌雄判別せず））。4月29日の観察では24個体。

4月25日　キンチャクダイ（403号水槽）が、ハナウミシダの腕の先端をかじっているのを目撃した。他のハナウミシダでは、腕が短く刈り込まれたようになっているものが数個体あった。

5月23日　ミナミテナガエビ9個体のうち4個体の抱卵を確認した(305号水槽。2006年9月と10月に富田川と高瀬川(白浜町)で採集した計19個体を収容)。

5月27日　ヨウジウオ（303号水槽に吊るした水槽）が稚魚を放出した。約100尾を回収し予備水槽へ収容したが、まもなくすべて死亡した。

5月31日　オオバウチワエビ1個体（222号水槽）のフィロゾーマが孵化し、しばらく水中を漂った。

6月6日－10月26日　スズメダイ科2種の産卵と卵保護行動が410-2,3号水槽（「スズキ目カゴカキダイ・チョウチョウウオ・キンチャクダイ・スズメダイ・ベラ・ブダイ科」）で見られた。卵は水槽のエポキシ樹脂塗装壁面と水槽に入れたコンクリートブロックに産みつけられた。ロクセンスズメダイ（成魚8尾）については6月6日～10月26日に、オヤビッチャ（成魚13尾）は6月18日～10月21日に、それぞれ10回以上の産卵を確認した。

7月14日　ロウニンアジ（雄7尾、雌2尾。101号水槽）が午後産卵し、水槽が白濁した。

8月 7日　サカサクラゲの幼クラゲ5個体（傘径約3mm）の出現を、ポリプを収容していた予備水槽で確認した。8月14日には23個体に増えたため、これらを別の水槽に移した。その後、9月7日にも6個体（傘径5mm以下）を幼クラゲ用の水槽へ移した。9月24日、幼クラゲ槽では16個体（傘径8-32mm）が生残し、このまま育てることにした。11月1日には傘径25-65mmに成長した（昨年生まれの1個体は117mm）。

8月11日　サンゴイソギンチャク（201号水槽）が2個体に分裂した。

8月14日　オオフトトゲヒトデ1個体（215号水槽）の放精が8：00ごろに見られ、水槽が白濁した。また13:30ごろには、同水槽でコブヒトデモドキの放精も見られ、白濁した。

9月30日　チグサミズヒキの生殖遊泳個体1個体を、407号水槽で17:00ごろ採集し、動画撮影後に標本にした。

11月20日　ヒラスズキ10尾（全長40-48cm。413号水槽）のうち2尾が、大型魚（全長1m近いハタ類かフエダイ類）に捕食されてしまった。これらヒラスズキの若魚は、11月6日に404号水槽から移したもの。

7. その他

1月10日　水族館検討会を開いた。

2月15日　太田 満 技術職員が、日本動物園水族館協会・第35回飼育技師資格認定試験に試験官として立ち会った（会場：アドベンチャーワールド）。

2月20日　展示小委員会を開いた。

2月21日　水族館検討会を開いた。

3月 1日・2日　加藤哲哉 技術職員が、平成18年度名古屋大学総合技術研究会・生物科学技術研究会に参加し、太田 満・山本泰司 技術職員と連名で「ポケッ

ト水槽によるオニイソメとクモヒトデの飼育展示」のポスター発表を行った。

3月19日　水族館の旧看板（58cm×38cm、木製）を整備し、入口上方に設置した。1981年まで掲示されていたものを再利用。

3月26日　水族館検討会を開いた。

3月28日　新規に購入した長いす4脚を観覧通路の2箇所に、学習机3脚といす4脚を第2水槽室読書コーナーに、アンケート用机1脚を出口前に配置した。

4月 6日　京都大学総合博物館企画展示「森と里と海のつながり　京大フィールド研の挑戦」（2004年）に掲示され、瀬戸臨海実験所の教員が担当したパネル7枚が、フィールド科学教育研究センター企画情報室より貸し出された。今後、第3水槽室のウォールケースの新展示に使用する予定。

4月23日　出口自動ドア近くに机を置き、アンケート関連物品を配置した。

5月 7日　一般向けイベント「水族館の磯採集体験」が、平成19年度地域科学技術理解増進活動推進事業 機関活動支援（独立行政法人科学技術振興機構（JST））に採択された。

5月14日　水族館検討会を開いた。

5月16日　京都大学理事および随行員一行に、地下機械室や濾過槽室などで緊急に補修を必要とする箇所を説明した。

6月 4日・5日　紀本電子工業（株）が、二酸化炭素添加影響実験用の新装置（高精度分析装置とガス調整器）を第3水槽棟作業室と実験準備室に設置し、担当技術職員に維持管理の説明を行った。

6月11日　水族館検討会を開いた。

6月25日　夏休み解説ツアーの宣伝ポスター（B2、600枚）を、インターネットを通じ業者に発注した。従来はA3用紙にコピー機でカラー印刷していた。

7月14日　台風4号の影響により波浪警報が発令され、予定していた「水族館磯採集体験」（県民カレッジに登録した連携講座。JST支援）を中止した。また、臨海地区周回の県道が越波のため、15時に閉館した。

7月15日　台風4号の高波のため、南浜排水口2箇所が砂詰まりしたので、排水口を掘り出し、逆洗水を流すことによって水を通した。また18日には、南浜道路に打ち上がった砂を教職員と大学院生とで除去した。

9月21日　太田 満 技術専門職員が、日本動物学会から感謝状を贈呈された。

10月10日　金子篤史 技師（美ら海水族館）を、バックヤードに案内した。

10月13日　増田元保 副館長（碧南海浜水族館）、櫻井 博 係長（東京動物園協会）ら一行7名を案内した。

10月24日　「アクアすぽっと！」（無料情報誌）に当館の情報を掲載し、館内で配布することにした。

10月26日・27日　名古屋港水族館（飼育部2名）による採集動物の一時保存のため、第3水槽棟作業室の水槽設備を一部提供した。また予備水槽で飼育していたカゴカキダイ24尾（全長10-15cm）を寄贈した。

10月29日　水族館検討会を開いた。

11月24日　車椅子一台が宝クジ協会から送られた。

12月 5日　紀州博物館に、当館の歴史写真パネル30枚（2005年に創設75周年記念写真展で使用）を貸し出した（7日返却）。